

## 2024 年度事業報告

### 1. 会議

定時社員総会	3月30日
臨時社員総会	11月28日
総会	11月30日
理事会	3月30日, 7月13日, 10月26日
常任理事会	3月17日(現、新)、5月10日, 6月19日、6月21日, 7月9日(臨時)、10月11日

2. 学術集会 第71回学術集会：11月28日～12月1日（大阪）

3. 刊行物 機関紙：日本臨床検査医学会誌 第72巻1-11号 Supplement：第72巻補冊  
英文誌：Laboratory Medicine International 誌 第3巻1-4号

### 4. 臨床検査専門医（機構・学会）、管理医 認定

臨床検査専門医認定試験	8月4日（東京大学）
臨床検査専門医・管理医更新	1月1日
臨床検査管理医講習・認定試験	9月15日（三井記念病院）

### 5. 会員数

	2022年度 (会費納入済数)	2023年度 (会費納入者数)	2024年度 (会費納入者数)
総会員数	3,096名 (2,877名)	3,048名 (2,490名)	3,027名 (2,458名)
正会員	2,862名 (2,694名)	2,819名 (2,326名)	2,800名 (2,295名)
(評議員)	(185名) (185名)	(184名) (182名)	(182名) (182名)
学生会員	66名 (62名)	66名 (59名)	64名 (63名)
名誉会員	41名	42名	40名
功労会員	127名 (121名)	121名 (105名)	123名 (100名)
賛助会員	36社 (36社)	37社 (37社)	42社 (42社)

・各年度12月31日の会員数

### 6. 関連団体（事業）

- 1) 日本臨床検査専門医会 {第3回春季大会（和歌山）：6月29日(金)-30日(土)}
- 2) 日本臨床検査同学院（臨床検査士資格認定試験：二級・緊急・一級、遺伝子分析科学  
認定士資格認定試験：初級・一級、POCT測定士認定試験）
- 3) 日本臨床化学会 {第64回年次学術集会（宇都宮）：8月31日(土)-9月1日(日)}
- 4) 日本医療検査科学会 {第56回大会（横浜）10月4日(金)-6日(日)}
- 5) 世界病理学・臨床検査医学会連合会(WASPaLM)：第33回(アンタルヤ)10月16日(水)-20日(日)
- 6) アジア臨床病理・臨床検査医学(ASCPaLM)：第18回ASCPaLM(ソウル)9月25日(水)-27日(金)
- 7) 日本臨床検査標準協議会, 8) 認定検査技師機構, 9) 日本専門医機構
- 10) 臨床検査振興協議会, 11) 各種制度審議会・協議会

## 事業報告書

2024年1月1日から2024年12月31日まで

### I 事業の概況

#### 1 事業の経過及び実績

##### (1) 社会公共性活動

日本臨床検査医学会は、一般社団法人として、積極的に社会公共性を意識した活動を展開しています。世界に先駆けて進む超高齢化への対応として内閣官房が主導する医療デジタルトランスフォーメーション（DX）では、国民の保険・医療・介護の情報が利活用され個人の健康増進に繋がる施策が展開され、関係諸機関が協働することが求められています。患者自身が必ずしも記憶していない検査結果情報はその中でも重要な項目であり、臨床検査の重要性が改めて認識されています。また、悪性腫瘍をはじめ様々な疾患において遺伝子・ゲノム関連検査とそれに基づく治療を行うことにより、今まで治療が困難であった疾患の制御や治癒が可能になり、国民にとって大きな福音となっています。この流れを持続的に推進するにあたり、治療に用いる薬剤と同等に重要なのが臨床検査の新規開発や制度管理・標準化です。

このような医療環境や政策の変化に適応するため、本学会は、学術集会や学会誌等における臨床検査の社会的役割についての啓発活動の継続、標準化活動の推進、各種ガイドライン・指針の策定、臨床検査の臨床的価値・社会的有用性に関する客観的データの提示と提言などを通じて、臨床検査の視点から日本の医療の質向上に寄与しています。

また、日本専門医機構が定める基本19領域のひとつである臨床検査領域では、基本領域臨床検査専門研修の実施とそれを経た者に対する機構認定専門医審査、および学会認定の専門医審査を行い、社会から求められる有能な臨床検査専門医を育成しています。

##### (2) 学術活動

学会の事業の一環として、①2024年11月28日～12月1日に大阪市で第71回学術集会を開催 ②機関誌として、国内誌「日本臨床検査医学会誌」の第72巻を12号刊行、国際誌「Laboratory Medicine International」の第3巻を4号刊行 ③「臨床検査専門医」・「臨床検査管理医」認定試験および更新審査 ④臨床検査士及び細胞検査士に係る資格認定 などを行いました。

各種委員会活動においては、30近い数の委員会が前年度に引き続き活発に活動を行いました。詳細は別紙<報告事項：第1号議案-2>をご覧ください。

その他、研究の奨励・研究業績の表彰、関係学術団体との連絡・協力、国際的な研究協力の推進など、幅広い活動を展開しています。

### 2 対処すべき課題

#### (1) 学会活動の更なる活性化

本学会は、すべての医学・医療分野に関わる臨床検査を学術的な立場から先導していく役割を担っており、医療DXや遺伝子・ゲノム情報に基づく医療などの社会的ニーズを踏まえ、国民の健康増進・疾病の予防や早期発見・治療に有用な臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。そのためには、学術集会の開催・機関誌の発刊・既存の各種委員会の活動に加えて、時宜を得たアドホック委員会等の立ち上げと活動の展開が必要と考えています。役員を中心として随時議論を行っていますが、評議員（社員）の皆様のご協力を改めてお願い申し上げます。

また、本学会に限ったことではありませんが、会員の高齢化が進んでいます。本学会の活動を持続可能なものとするため、特に若手の医師等を会員として迎え入れ、次世代の本学会および臨床検査医学の研究を担う人材を育成していかなければなりません。既に行っている学会賞や学術推進プロジェクトによる会員の研究活動の推進は、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成の一環ですが、これを更に強化する必要があります。

また、臨床検査に関する社会への啓発活動として、保険診療としての臨床検査が適正に評価され

るための活動も重要と考えており、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連団体や他学会とも有機的に連携をとりながら継続的に議論しています。

### (2) 社会が求める臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必須です。検体検査管理加算、国際標準検査管理加算などの診療報酬上の評価、臨床検査の品質・精度の確保に関する業務、医療機関の安全管理と標準化に関わる報告業務など、臨床検査を担う部門のあるべき姿は学会発行のガイドラインに示されています。これを的確に管理する能力をもった臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成は本学会の責務です。臨床検査専門医をめざす多くの専攻医を確保し育成する努力が求められます。臨床検査管理医については、教育講習と認定試験の改善について検討を続けています。

### (3) 医療 DX 推進とゲノム医療実装への対応

冒頭に述べた社会公共性の観点では、医療 DX と遺伝子・ゲノム医療の両面において本学会が果たすべき役割は大きいと考えます。標準検査コードや検査精度管理運用の強化、遺伝子関連検査に関して専門的知識や技能を備えた臨床検査医の育成が急務です。本学会ではこれらに関して、臨床検査関連の各種団体や官庁、および遺伝子関連学会と協議して対応を進めています。

## 3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

## II 法人の概況

### 1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会認定臨床検査専門医、名誉臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定
- ④ 臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕、アジア臨床検査医学会連合〔Asian Societies of Clinical Pathology and Laboratory Medicine (ASCPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

### 2 社員（2024年12月31日現在）：182名

### 3 役員（2024年12月31日現在） 21名

理事 大西 宏明（理事長）  
柳原 克紀（副理事長）  
森兼 啓太  
吉田 博  
堀田多恵子  
増田亜希子  
松下 弘道  
松下 一之  
井上 克枝  
上原 剛  
下澤 達雄

	山崎	正晴
	高橋	聡
	志村	浩己
	中山	智祥
	伊藤	弘康
	長尾	美紀
	末廣	寛
	橋口	照人
監事	山田	俊幸
	諏訪部	章

- 4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実記載すべき事項は、ありません。

## 2024 年度 日本臨床検査医学会 各種委員会 活動報告

### 1) 編集委員会 (委員長: 下澤達雄、担当理事: 吉田 博)

- ①2023 年度発行の本学会機関誌 (国内誌) に出版された論文を対象に優秀論文賞の審査を行い、1 名の受賞者候補者 (次点候補者 2 名) を選考した。
- ②Laboratory Medicine International (LMI) の 3 巻 1 号 (3 月)、2 号 (6 月)、3 号 (9 月)、4 号 (12 月) を発刊した。
- ③LMI のシステム体制として ScholarOne Manuscripts と J-STAGE 搭載は継続される。
- ④LMI 専用の WEB ページを作成中である。
- ⑤日本臨床検査医学会誌の投稿論文の論文審査について検討を行った。
- ⑥日本臨床検査医学会誌のトピックスの立案を行った。
- ⑦国内誌の PUBMED 掲載の再開について申請を行った。(現時点で掲載再開不承認。)
- ⑧第 12 回日本医学雑誌編集者会議 (JAMJE) 総会・第 12 回シンポジウム (テーマは「AI と医学雑誌編集」) が 2024 年 2 月 6 日に日本医師会館大講堂で現地開催され、下澤副委員長 (現、委員長) が出席した。

### 2) 教育委員会 (委員長 植木重治、担当理事 山崎正晴)

- ①【主催】日本臨床検査医学会第 79 回関東・甲信越支部例会 RCPC (領域講習 2 単位) 2024 年 5 月 25 日、出題者: 松本剛、回答者: 野村祐希、福島理文
- ②【共催】第 1 回医学生・研修医のための臨床検査セミナー (指導医講習 2 単位) 2024 年 7 月 28 日、主催: ワークライフバランス委員会・九州支部 講師: 松本剛、橋口照人 ファシリテーター: 山口宗一、金子誠、松下弘道、常川勝彦、植木重治
- ③【第 71 回日本臨床検査医学会学術集会 教育委員会企画】2024 年 11 月 30・31 日、RCPC (指導医講習各 1 単位)、RCPC1 座長: 上岡樹生・中村文彦、出題者: 山本さやか、回答者: 川村良一・松永絢乃、RCPC2 座長: 常川勝彦、出題者: 松本剛、回答者: 根木翼・小玉美幸、Catch Up セミナー (領域講習各 1 単位)、セミナー1 司会: 松下弘道 演者: 堀田多恵子、セミナー2 司会: 志村浩己 演者: 小飼貴彦、セミナー3 司会: 山口宗一 演者: 野村恵巳子

### 3) 保険診療委員会 (委員長: 松下一之、担当理事: 森兼啓太)

- ①令和 8 年度診療報酬改定について、日本臨床検査専門医会と協働して日本臨床検査振興協議会から内保連に提案する項目候補: 44 項目、他学会と共同提案とする項目: 11 項目を決定した。
- ②医療 DX に関連して、HL7-FHIR に必要な JIAC10/11 の検査室における導入について、生活習慣病等の検査 43 項目と感染症 5 項目の合わせた 48 項目について検査項目コード委員会と協力して医療機関への導入にむけて関係機関と協議中。
- ③日本医師会医療保険課からの体外診断用医薬品の供給停止品目に係る検討を随時行っている。

### 4) 学会賞委員会 (委員長: 飯沼由嗣、担当理事: 井上克枝)

- ①2024 年 8 月 5 日 (月) に Zoom 開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞 (上叢義典氏)、検査・技術賞 (該当者無し)、若手研究者奨励賞 (酒井康弘氏)、優秀論文賞 (大枝敏氏)。
- ②2023 年度より募集要項を変更し、学術賞と検査・技術賞のどちらかの賞のみ受賞できるとしたが、以後検査・技術賞は応募が無い状況である。2025 年度は両賞の意義を考慮し、要項の変更は行わず募集を行うこととし、募集結果をふまえて委員会にて更に検討することとした。

### 5) 学術推進化委員会 (委員長: 浅井さとみ、担当理事: 井上克枝)

- ①2024 年度 学術推進プロジェクト研究として 14 課題の応募があり、2 課題を採択した。
- ②2023 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の中間報告 3 課題を受理した。
- ③2024 年 1 月「2024 年度学術推進プロジェクト研究課題応募開始のお知らせ」を全会員に向けてメール配信した。
- ④2022 年度学術推進プロジェクト研究課題採択者 2 名による最終報告発表が 11 月の学術集会 (大

阪)で行われた。

- ⑤2022年度学術推進プロジェクト研究課題採択者1名より最終報告書および会計報告書が提出された。

#### 6) 標準化委員会 (委員長: 木村孝穂、担当理事: 増田亜希子)

- ① Lp(a)測定試薬の標準化作業において収集した検体の測定を実施し、データ解析中。
- ② C-ペプチド測定試薬の標準化作業において収集した検体の測定を実施し、データ解析中。
- ③ 日本内分泌学会からの IGF-1 測定結果の報告方法に関する問い合わせについて日本臨床化学会と協議し、本学会としての考え方を回答した。
- ④ 2011年に作成・発表した学生用共通基準範囲(日本臨床検査医学会設定)を現状に即した内容に改訂するための作業中。
- ⑤ TSH、FT4測定試薬のハーモナイゼーションに関する問い合わせに回答した。

#### 7) 精度管理委員会 (委員長: 小池由佳子、担当理事: 堀田多恵子)

- ①CAP国際臨床検査成績評価プログラム中間報告: 参加施設は、135施設(新規: +6施設/中止-34施設)であった。中止施設の多くが、前年同様COV2サーベイ参加施設であり、中止理由として他団体のサーベイに参加する、新型コロナウイルス感染症が5類に分類されたことで検査自体が減った等が挙げられた。
- ②臨床検査室グローバルニュース報告: 年4回、毎号約9,000部発行している。記事の確認、英文翻訳の校閲を今後も行っていく予定である。
- ③第1回精度管理委員会(11月29日に開催)報告: CAPサーベイにおける国内参加施設の統計解析を認めてもらいたい旨の提言をJSLM精度管理委員会として米国CAPに引き続き行うことが議論され決定した。

#### 8) EBLM委員会 (委員長: 佐藤正一、担当理事: 下澤達雄)

- ①第1回EBLM  
委員会において、委員会メンバーの再編と今年度のシンポジウムおよびハンズオンセミナーのテーマと内容について協議を行った。シンポジウムでは、新しい技術の紹介とデータ解析の実用的な内容を計画し、ハンズオンセミナーでは、実践的なAI学習を実施することとした。
- ②第71回日本臨床検査医学会学術集会において、委員会企画4(シンポジウム): データ解析技術の新展開およびハンズオンセミナー: 実データで学ぶ機械学習によるデータ解析の基礎と実践を実施。

#### 9) 倫理委員会 (委員長: 木村孝穂、担当理事: 柳原克紀)

- ①学会発表に関するガイドライン作成(2024/1/28にHPに掲載)。
- ②2024年11月29日に第71回日本臨床検査医学会学術集会で委員会企画1「臨床研究における既存資料(残余検体)の考え方」を「共通講習B医療制度と法律」として開催した。

#### 10) 利益相反委員会 (委員長: 山崎正晴、担当理事: 柳原克紀)

- ①日本医学会第8回研究倫理教育研修会(2024/5/7)に委員長が参加し、利益相反管理に関する情報収集を行った。
- ②第71回学術集会で委員会企画(2024/11/29 テーマ: 今、求められる利益相反管理とは?)を開催した。
- ③学会HPのCOI参考資料の差し替え、「医学研究の利益相反(COI)に関する指針」および「細則」の改定案、およびに組織COI開示について2025/1/14に理事会へ諮問した。

#### 11) ガイドライン作成委員会 (委員長: 田中靖人、担当理事: 吉田 博)

- ①臨床検査のガイドラインJSLM2024発刊に向けて印刷中
- ②今年度は計10件の転載許諾依頼があり、内容を確認のうえ慎重に検討し許諾した。なお、今年度から商用目的の転載は有料とすることになった。

- ③日本医学会連合第2回診療ガイドライン統括委員長会議、2024年9月6日開催。COI（個人、組織）及びガイドライン策定参加基準ガイダンス改訂など報告された（出席：大西理事長）
- ④第71回学術集会（大阪）2024年11月29日 ガイドライン作成委員会を開催した。
- ⑤2025年8月開催予定の72回学術集会で臨床検査のガイドラインに関する委員会企画のセッション予定

#### 12) 検査項目コード委員会（委員長：内海 健、担当理事：松下一之）

- ①JLAC10コードについて、新規登録として分析物コード6、識別コード1、結果識別コード54の計61、補足事項追記を含む変更として分析物コード4、識別コード3、材料コード2、測定法コード2、結果識別コード（共通）4、結果識別コード(固有)12の計27を行った。
- ②JLACセンター（康センター長）が開設され検査項目コード委員会との協力体制が強化され、「JLACセンター付番部門審議委員会」にて新規体外診断薬を中心にしてJLACコードの付番を行っている。
- ③JLAC11コード表について、2月に日本臨床検査医学会ホームページ上にて情報を公開した。随時更新継続しており、10月までに新規登録として測定物コード109、識別コード12、測定法コード1745の計1866、補足事項追記を含む変更として測定物コード3、材料コード1、測定法コード112、結果単位コード112の計116を公開した。

#### 13) 広報委員会（委員長：千葉泰彦、担当理事：下澤達雄）

- ①Instagram発信開始（5月）。
- ②レジナビフェア初出展（6月：東京）。42名の医師・医学生が来訪。「講義で臨床検査の話聞いていない」という学生が少なくなかった。
- ③JACLaS EXPO（10月：横浜）で、臨床検査医業務の紹介、学術集会のポスター、新ポスター「チーム医療の中心 臨床検査医」等を掲示。
- ④学術集会で、広報委員会「専門医の育成とリクルートワーキンググループ」の活動内容を発表した。

#### 14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：松下弘道、担当理事：堀田多恵子）

- ①日本医学会連合門田班（臨床内科グループ）（以下門田班）からの依頼で2023年11～12月に行なったアンケート調査「ポストパンデミックの臨床検査体制」の結果を2024年3月19日に開催された門田班の研究結果報告会で報告した。また、その内容の一部を第71回日本臨床検査医学会学術集会にて発表した。現在、日本臨床検査医学会誌への投稿を準備している。

#### 15) 遺伝子委員会（委員長：松井啓隆、担当理事：松下一之）

- ①2024年度学術集会において、委員会企画「網羅的遺伝子関連検査の実際：実務者の視点から」を開催した。遺伝子関連検査に従事する多職種の方々より、精度管理のあり方を含め実務に関する講演を頂いた。
- ②日本遺伝性腫瘍学会刊行予定の「遺伝性腫瘍に関する多遺伝子パネル検査(MGPT)の手引き」について、本委員会委員が執筆担当した。
- ③日本臨床検査振興協議会「遺伝子関連検査に関する小委員会」に本委員会からメンバーとして参画し、がんゲノム、MRD、難病ゲノム、LDTなどについて意見交換・情報共有を行った。
- ④本委員会委員を中心として、全ゲノム遺伝子解析を伴う検査の精度確保に関するワーキンググループのメンバーを招集し、本件に関する意見交換と取りまとめを継続している。

#### 16) 国際委員会（委員長：下澤達雄、担当理事：井上克枝）

- ①2024年度国際学会奨励賞受賞候補者を選考し山崎あずさ、太田悠介、宮腰恒広の3氏を受賞者として推薦した。
- ②World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM) 2024 (Oct 16-20, 2024、トルコ)におけるJSLMセッション Novel Perspective and Recent Progress in

Laboratory Medicine にて、村上正巳先生 Taner Özgürtaş 先生座長のもと右田王介先生 (Early Diagnosis and Early Treatment for Neonatal Genetic Diseases)、松下一之先生 (In-house Developed Multi-Gene Panel Testing for Hereditary Cancers and its External Quality Assessment/proficiency Testing (EQA/PT))、石毛信之先生 (The Application of Mass Spectrometry to Newborn Screening and Diagnosis of Inherited Metabolic Diseases in Japan) 下澤達雄国際委員会委員長(Urinary Biomarker Hunting by LC/MS-omics. Example of Food Allergy) が講演を行った。

- ③2024 年度 ASCPaLM 学術集會に本学会役員のうち了承の得られた先生方のメールアドレスを提出した。また、"Blood Supply and Availability" のセッションにて金子誠先生 (Ensuring the Safety and Availability of Blood Supply in Japan: Risk Management and Countermeasures) にご講演いただいた。

#### 17) 医療安全委員会 (委員長：三枝 淳、担当理事：森兼啓太)

- ①第 71 回学術集會におけるシンポジウム (委員会企画)「パニック値 (クリティカルバリュー) と医療安全」を企画・実施した。演者：小塚利恵先生、辻岡貴之先生。座長：森兼啓太担当理事、三枝淳委員長。
- ②第 71 回学術集會会期中に医療安全委員会会議を現地開催し、第 72 回学術集會時委員会企画について検討し、医療事故・医療安全全般に関する内容が候補に上がった。企画を進めている。

#### 18) 会則改定委員会 (委員長：浅井さとみ、担当理事：増田亜希子)

- ①2024 年における承認事項なし。

#### 19) チーム医療委員会 (委員長：小谷和彦、担当理事：山崎正晴)

- ①パニック値の検討；パニック値の運用に関する提言 (公開中) への照会対応。パニック値の全国調査の集計と報告。
- ②チーム医療における臨床検査とその専門家の役割に関する検討の継続。

#### 20) 学術集會企画委員会 (委員長：吉田 博、担当理事：柳原克紀)

- ①第 71 回学術集會は 2024 年 11 月 28 日 (木) ~12 月 1 日 (日) の日程で大阪市 (会長：日野 雅之) にて現地およびオンデマンド配信で開催された。
- ②第 72 回学術集會は 2025 年 8 月 28 日 (木) ~31 日 (日) の日程で千葉市 (会長：大西宏明) にて現地&オンデマンド配信で開催予定。
- ③第 73 回学術集會は 2026 年 12 月 17 日 (木) ~20 日 (日) の日程で千葉市 (会長：吉田博) にて現地&オンデマンド配信で開催予定。
- ④第 74 回学術集會の集會長については森兼啓太先生 (山形大学) に決定し、開催時期は 2027 年 11 月、会場は栃木県宇都宮市で調整が進んでいる。

#### 21) ワークライフバランス委員会 (委員長：西川真子、担当理事：松下弘道)

- ①7 月 28 日に「第 1 回医学生・研修医のための臨床検査セミナー」を web 形式で行った。参加者は医学生 3 名、医師 103 名 (うち初期研修医 15 名、臨床検査専攻医 22 名) であった。
- ②第 71 回学術集會で、委員会企画を行った。(前半：「ライフイベントと仕事：両立できたか? できるのか?」、後半：「検査医の集い：対面懇親会」)。
- ③臨床検査専門医取得に関するサポートセンターには継続的に相談があり、随時対応をした。件数は男性 7 名、女性 4 名。

#### 22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会 (委員長：湯地晃一郎、担当理事：堀田多恵子)

- ①第 71 回日本臨床検査医学会学術集會にて委員会企画「医療 DX と臨床検査の展望」を開催、2024 年度第 1 回委員会を開催(11 月 30 日)。
- ②標準企画 HL7 FHIR に関する日本医療情報学会 NeXEHRs 課題研究会に堀田担当理

事、湯地委員長、市村委員が参加。

③生活習慣関連臨床団体拡大会議に湯地委員長がオブザーバー参加(6月6日,12月12日)。

④第72回日本臨床検査医学会学術集会にて委員会企画を開催予定。

### 23) 地域医療における臨床検査に関する委員会 (委員長：小谷和彦、担当理事：森兼啓太)

①臨床検査専門医の地理的分布や施設種、および臨床検査分野の地域医療貢献に関する検討を継続している。

②臨床検査専門医の所属する地域と施設を学会ウェブサイト上で公開し、地域における臨床検査に関する専門的な相談や専門医を目指す医師のキャリアパス構築に関する相談などへのアクセスを改善した。

### 24) ICD-11 委員会 (委員長：後藤和人、担当理事：吉田 博)

①社会保障審議会統計分科会 ICD 専門委員会に後藤委員を派遣した。

②厚生労働省から依頼のあった ICD-11 改正内容および ICD-11 for MMS の追加・変更分の和訳の確認作業について回答を行った。

③第27回社会保障審議会統計分科会 ICD 専門委員会にて、「ICD-11 (2023年1月版) の分類の表記に用いる用語 (代表語) の和訳案」が承認されて、厚生労働省のホームページに公開された。

④厚生労働省から依頼のあった ICD-11 for All Index Terms の和訳の確認作業について回答を行った。

### 25) 感染症に関する委員会 (委員長：柳原克紀、担当理事：森兼啓太)

①今後の感染症検査の方向性について競技する委員会として、新型コロナウイルスに関するアドホック委員会から発展的に設立された。

②2024年5月29日(水)および11月29日(金)に会議を開催した。

③次期学術集会でのシンポジウム「微生物検査の品質保証に関する課題と取り組み」を企画した。

④今後は One Health の分野にも取り組んでいく方針を決定した。

### 26) 遺伝子検査認定医・専門医に関するアドホック委員会(委員長：松井啓隆、担当理事：松下弘道)

人類遺伝学会・遺伝カウンセリング学会・遺伝子診療学会(遺伝医学関連学会)との協議を受け、本制度は段階的に、まず臨床検査専門医を対象とし、オンラインコンテンツの受講と確認テストの合格を持って遺伝子関連認定医の資格を付与する方向で準備を進めている。オンラインコンテンツと確認テストの準備は概ね整いつつあり、引き続き受講方法の詳細を検討中である。

### 27) 評議員審査委員会 (委員長：大西宏明)

評議員で2025年1月1日付再任該当者を抽出し、委員会、理事会に再任予定者として報告した。また、該当者に再任手続きの書類を送付した。

### 28) 受験・更新資格審査委員会 (委員長：金子 誠)

下記について、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

①2024年度臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格審査

②第16回臨床検査管理医 講習・認定試験実施と合格判定

③2025年1月1日付の臨床検査管理医の更新資格、臨床検査専門医資格者からの管理医申請、名誉臨床検査専門医についての審査

### 29) 試験委員会（委員長：古川泰司）

- ①第4回日本専門医機構認定臨床検査専門医認定試験ならびに第41回日本臨床検査医学会臨床検査専門医認定試験を8月4日東京大学で実施した。前者は13名、後者は3名が受験した。
- ②試験委員会・試験実行委員会合同の合否判定会議は同月21日東京大学・臨床検査部医局内で行い、試験運営、合否判定の運用について、問題がないことが確認された。合計15名が合格と判定された。

### 30) サブスペシャルティ検討委員会（委員長：吉田 博）

- ①内科学会を基本領域とするサブスペシャルティ領域専門医となっている感染症専門医は、新制度への移行期について、専門医機構、内科学会、本学会を含めた基本領域学会および感染症学会が連携して取り組むとする回答が内科学会からあった。
- ②サブスペシャルティ検討委員会を発展的に解消し、新たに専門医制度委員会として発足することが決まった。新年度2025年4月より専門医制度委員会（委員長：松下弘道理事）が正式に活動する。

### 31) 2024・2025年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：蔵野 信）

- ①第4回機構専門医試験、第41回臨床検査専門医認定試験は、東京大学本郷キャンパスにて2024年8月4日（日曜日）に1日で執り行われた。
- ②機構専門医受験者13名、学会専門医受験者4名の申込があった。
- ③受験者1人より試験辞退の申し出があり、計16名が受験を行った。
- ④2024年8月21日に東京大学本郷キャンパスにて行われた委員会判定会議では、機構専門医受験13名中合格13名、学会専門医受験3名中合格2名と判定された。
- ⑤第5回機構専門医試験、第42回臨床検査専門医認定試験を、2025年8月3日（日曜日）に東京大学本郷キャンパスにて実施予定。

### 32) 2024・2025年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：金子 誠）

- ①第16回臨床検査管理医講習・認定試験を9月15日（日）に実施した。40名の受験希望者のうち1名が欠席し、39名受験した。39名が合格となった
- ②欠席者1名については、あらたに受験申込が必要。

### 33) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会（委員長：松下弘道）

- ①2025年度基幹施設の研修プログラムの一次審査認定を行い、日本専門医機構に二次審査依頼をした。更新申請0施設（5年目にあたる施設）、新規申請1施設、変更申請17施設であった。
- ②2024年実施の日本専門医機構認定臨床検査専門医認定試験受験希望の専門研修修了書類の審査を実施した。

### 34) 日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：金子 誠）

- ①2025年1月1日付の臨床検査専門医更新の行い93名を一次審査認定し、日本専門医機構に二次審査依頼をした（休止(辞退)6名、延長8名）。更新単位となる共通講習、領域講習の審査認定を行った。
- ②研修・資格更新のQ&A拡充を継続する。ホームページも整理して改変予定。
- ③診療実績免除の廃止に伴う代替方法、全更新者対象テストの方法を提案（詳細は専門医制度委員会で検討）。